

「もっとウキを知りたい～基本を覚えて使い分けよう～ウキ戦術～」

「このウキはどういう風に使えばいいの？」という疑問をお持ちの釣り人は多いのではないかと。

釣具店に売られているウキは数多く、同一作者でも様々なタイプがあるので迷ってしまう。

また残念ながら、取り扱い説明書や何用と明示されているウキが少ないのも事実である。

そこで今回から始まる新企画「基本を覚えて使い分けよう『もっとウキを知りたい』」では、ヘラウキ作りをインターネットで公開した先駆け「尽心作」の製作者である北村滋朗氏に、製作者側から見たウキの使い分け、各タイプのコンセプトについて解説してもらう。

ウキの使い分け（概論）

1. はじめに

「へら専科」2005年3月号～2006年2月号まで、「基本を覚えて使い分けよう『ウキを知りたい』」というタイトルで、ヘラウキ製作者側から見た、ヘラウキの各パーツの分析、水の抵抗、ヘラウキの使い分け等、ヘラウキに関する様々なことについて考察してきた。

今回の連載では、ウキ作者がどのような考えに基づいてウキを製作しているか、どのような状況でそのウキをどう使って欲しいのか、ウキ製作に込められたコンセプトを具体的に分かり易く説明したいと考えている。

2. ウキの使い分け（概論）

最近のヘラウキの傾向は、用途が細分化されていることである。

特に浅ダナ釣りのウキは、ウキの性能が釣果に大きく影響することから、様々なスタイルのものが市販されている。その多くは、機能そのものを極限まで絞り込み、特定の状況下でのみ、その機能を最大限発揮できる作りとなっている。そのため、その用途にあった使い方をしないと、ウキ自体のもつ性能を引き出すことができず、釣果も伸びない。

また、「ダンゴの底釣り夏」というエサにみられるように、コンセプトは底釣り用として開発されながら、浅ダナ釣りに多用されるというように、ヘラブナ釣りでは、意外な使われ方が、好釣果につながることもある。この意外性が、ベテランも含めた多くのヘラ師の心を惑わし、かつ、楽しませる要因ではないかとも思う。

ウキの役割は、ヘラのアタリをキャッチする以外に、①エサをポイントまで運ぶ、②エサをタナまで運ぶという役割がある。

また、釣果は①ヘラの密度、②エサの沈下速度により、大きく左右される。

特に沈下速度については、①ウキ、②ハリスの長さ、③ハリの重さ、④エサの比重の組み合わせによって変化をつけることができるが、ウキの選択が沈下速度に最も大きな影響を与える。

実釣においてヘラ師は、ウキを基準にして、②ハリスの長さ、③ハリの重さ、④エサの

比重 を組み合わせることにより、理想的な状態を探っていると言えよう。

逆に言えばウキの選択は、①どのタナで、②どのような状態のエサを、③どのように（追わせながら、タナを凝縮しながら）釣るのかをイメージすることが重要であると考ええる。

3. 釣法の大まかな区分

各人の釣方により、多少の異なりはあるが、ウキの細分化に伴い、各釣法に合わせたウキが存在する。

反面、底釣りのウキはカツケに使われることはほとんどないが、チョーチン・沖宙に使われることは、状況によって存在する。

同様に、1 mの釣りにチョーチン・沖宙用のウキが使われることもある。

つまり、隣の区分については、ある程度ウキの互換性があると考えることができる。

ウキ製作者は、各釣法のコンセプトを素材の選択やバランスで表現している。

店頭に並べられたウキの中には、稀に「これはどのような時に使うのか？」と迷うウキも存在するが、根本的な問題は、多くのウキに取り扱い説明書がなく、どのように使用してもらいたいのか、明示されていない点にあるのではないだろうか

| タナ | 釣法 | 代表的な釣法 | 尽心作でのタイプ名 |
|--------------------------|---------------------|--------------------------------|-----------------------------|
| カツツケ (1 m未満) | 両ダンゴ | なじませ釣り | Type-E |
| | | 追わせ釣り | Type-E2 |
| | トロ掛けセット | ライト系 パワー系 | Type-E Type-E3 |
| 1 m | 両ダンゴ | なじませ釣り | Type-D |
| | | 追わせ釣り | Type-D2 |
| | トロ掛けセット | ライト系 パワー系 | Type-D Type-D3 |
| ウドンセット | 抜き系 ライト系 パワー系 | Type-D、D2 Type-D Type-D3 | |
| チョーチン・沖宙等 (1 m以上、底未満) | 両ダンゴ・両グルテン ペレ宙 | なじませ釣り | Type-C、B |
| | | 追わせ釣り | Type-C2、C3 |
| | トロ掛けセット | ライト系 パワー系 | Type-D、C3、HF Type-D3、HF3 |
| | ウドンセット | ライト系 パワー系 | Type-D、HF Type-D3、HF3 |
| 底 | 両ダンゴ・ペレ底 | なじませ釣り | Type-A、HF |
| | | 追わせ釣り | Type-A3 |
| | 両グルテン | | Type-C2、C3 |
| | 両ウドン | | Type-H |
| | 段差の底 | バラケを持たせる 釣り | Type-A、HF |
| | | バラケ抜く釣り | Type-A2、HF2 |

*なじませ釣りとは、タナを凝縮して釣りこむイメージの釣り。

*追わせ釣りとは、落下途中に食わせるイメージの釣り。

*ライト系とは、バラケの投入量が比較的少ない釣り。

*ライト系とは、バラケの投入量が比較的多い釣り。

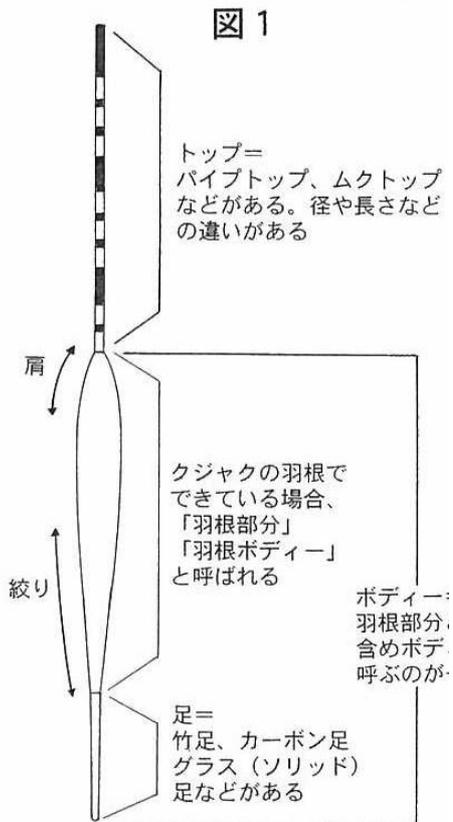
素材の特徴

1. ヘラウキの各部パーツの名称について

代表的な釣法毎のウキの解説に入る前に、その前提となる素材の特徴について、おさらいをしておきたい。

ヘラウキは大別して、3つのパーツからなる。(図1参照)

具体的には、①ボディ、②トップ、③脚 である。



*ボディ=羽根部分と脚を含めボディと呼ぶ場合もある。

出典：へら専科 2005年3月号「ウキを知りたい」より

2. ボディの素材とその変遷

ヘラウキのボディは、現在、孔雀の羽根とカヤが主流である。過去で言えば、桐、バルサ、発砲スチロール、珍しいもので、ゴーチョ(ヤマアラシの毛)などがあったが、現在は、カンザシウキやナイターウキで、バルサ材や発砲スチロールを使った物が見られる以外は、ほとんど姿を消してしまった。

孔雀の羽根とカヤを比較してみると、

(1) 孔雀の羽根

長所は、

- ①カミソリも欠けるほどの硬い表皮による耐久性、②白い羽根の美しさ

短所は、

- ①加工が難しい、硬く、真円ではない。②近年では鳥獣保護や鳥インフルエンザによる輸入量減少に伴う良材不足、③コスト高がある。

(2) カヤ

長所は、

- ①加工がやさしい、柔らかく、真円に近い。②素材が入手しやすい、③コスト安、また、羽根に比べて選別する必要が少ない。

短所は、

- ①孔雀の羽根に比べると耐久性が劣る、②浮力が孔雀の羽根に比べると弱い（比重が羽根よりも重い）、③素材そのものは白くない。といった点がある。

3. トップについて

トップは大別して、パイプとムクの2つのカテゴリーに分類される。

パイプは、トップの中に空気が入っている。ムクは素材のみで、中に空気は入っていない。

パイプの太さには、細い順で、極細→細→中細→太→極太の種類がある。

変わりトップとしては、逆テーパートップ、上ムク下パイプ（上部はソリッドで下部はパイプ、関西に見られる）、上パイプ下ムク（上部はパイプで下部はムク、大バラケを使った角麩の釣り用）、パイプとムクの交互（視認性に優れている）がある。

素材の違いにより、表1のように分類することができる。

(表1)

| No. | 大分類 | No. | 中分類 | 特徴 |
|-----|-----|-----|----------|--|
| 1 | パイプ | 1 | セル | <p>① 長所は肉厚が薄く、軽いことから、サワリを的確に表現する。</p> <p>② 短所は、熱に弱く、保管に気をつけないとトップがすぐに曲がってしまう。また、最近では素材が入手しにくくなっている。</p> |
| | | 2 | パール | <p>肉厚は、セルと後述のポリカーボとの中間である。</p> <p>① 長所は、素材そのものが名前のおりパールのように白いので、蛍光塗料の発色がよい。</p> <p>② 短所は、セルほどではないが、熱に弱く、保管に注意が必要である。また、セルと同様に熱で加工しているため、素材にバラツキがあり、選別が必要である。</p> |
| | | 3 | ポリカーボネイト | <p>① 長所は、熱に強く、曲がりほとんどない。素材のバラツキも少なく、丈夫で折れにくい。チョーチン釣りで、竿先にトップが当たっても破損が少ない。</p> <p>② 短所は、肉厚が、上述のセル、パールの中で一番厚いが、最近では、肉薄の改良されたものも出てきている。表面がツルツルで塗料の食い付きが悪いため、トップの塗装の前に表面を荒らす必要がある。素材そのものは、白くないため、トップの塗装前に下地塗装が必要である。</p> |
| 2 | ムク | 1 | ガラスソリッド | <p>① 長所は、素材自体が硬くはりがあるので、ロングトップに使用しても、水切れがよい。また、加工しやすく、一般的な釣具店で購入が可能である。</p> <p>② 短所は、比重が素材の中で一番重いため、その特性を生かすような配慮が必要。</p> |
| | | 2 | ポリカーボネイト | <p>ガラスソリッドより、比重が軽く、パイプとガラスソリッドの中間のような特性を持つ。また、比重が軽いので、ガラスソリッドよりも太いものが使用でき、視認性が向上できる。</p> |

| | | | | |
|--|--|--|--|---|
| | | | | 短所は、①素材自体が柔らかいため、ロングトップに使用すると水切れが悪いこと、素材自体が柔らかいため、カッターでの加工は難しく、双方向に回転させて紙ヤスリで削りだす必要がある。 |
|--|--|--|--|---|

4. 足について

ヘラウキの足の素材も、トップと同様、様々な種類があり、それぞれ以下のように分類することができる。以前は、オールピーコックと呼ばれるものもあったが、最近では姿を消してきたため、割愛した。

| No. | 分類 | 特徴 |
|-----|---------|---|
| 1 | 竹 | <p>① 竹は竿の素材としても使用され、見た目では足の素材として、一番マッチングする。また、比重が軽く水に浮くことから、ウキ全体の浮力（復元力）を増加させることができる。</p> <p>② 短所は、カーボンやソリッドと比較して強度が低い。このため、細く削りだせない、また、素材自体に曲がりがある。これらの理由から、底釣り用のあまり長さが必要でないタイプによく使用される。</p> |
| 2 | カーボン | <p>① 比重は重く水に沈む。また、強度があるため、細く長い足が製作可能である。こういった性質を生かして、浅ダナ用足長ウキの足素材として、多用されている。また、硬度が高い（硬い）ため、ウキが立った後、安定する。</p> <p>② 短所は、加工が難しいこと、特に硬度が高いことから、羽根とカーボンの接合部分にクラック（ひび）が発生しやすい。</p> |
| 3 | グラスソリッド | <p>比重は重く水に沈む。また、強度があるため、細く長い足が製作可能である。ただ、カーボンよりも硬度が低い（柔らかい）ため、ウキが立った後の安定感は、カーボンを足に使ったウキよりも、ブレが発生しやすいように感じる。しかしながら、カーボンよりも加工しやすいので、上記のようなクラックの問題はほとんど発生しない。</p> |

5. 各部パーツの比重について

ご存知のとおり、水の比重は1で、これよりも重ければ水に沈み、軽ければ水に浮く。ヘラウキを構成する各パーツの比重が、その素材を選択する大きな要因となっている。

比重という言葉は辞書でひくと、「ある物質の質量と、それと同体積をもつ標準物質の質量との比。通常、セ氏四度の水を標準物質とする。」とある。簡単に言えば、比重とは、水

1 立方センチメートル 1g に対する当たりの重さの数値比較である。

試験片はヘラウキの製作に使用しているものをそのまま使用しており、孔雀の羽根やカヤ、竹は天然素材であることから、バラツキがある。また、試験片の重量を測定する計量器についても、プロユースのものではないので、この結果はあくまで、目安ということで、ご理解をお願いしたい。

| No. | 分類 | 比重 | 参考(書籍や Web サイトで調べた数値) |
|-----|-------------|------|-----------------------|
| 1 | クジャクの羽根 | 0.17 | — |
| 2 | カヤ | 0.23 | — |
| 3 | 竹(編み棒の 0 番) | 1.01 | 0.69 |
| 4 | PC ムク | 1.27 | 1.20 |
| 5 | カーボン | 1.40 | 1.80 |
| 6 | グラスソリッド | 1.91 | 2.50 |

結論：比重の軽い順：孔雀の羽根→カヤ→竹→ポリカーボネイト→カーボン→グラスソリッド

*竹の数値に一般に公表されている数字と大きなヒラキがあるのは、編み棒は比較的、竹の表皮に近い硬い部分を使用しているためと思われる。

今回は、底釣り用のウキに関して解説していきたい。

以上